

歴史としての冷戦終焉

— ポスト冷戦の視座から —

共催：公益財団法人日本国際問題研究所 (JIIA)、九州大学大学院法学研究院

TASS/アフロ

冷戦終焉から30余年——
なにが終わり、なにが続いたのか
歴史を紐解き、複雑化する世界情勢を見通す

2024 11/2 (土)

14:00~17:40 (受付開始 13:30~)

会場 TKPガーデンシティ博多 (Zoomの同時配信あり)

〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-4-8

サットンホテル博多シティ内 5階 (博多駅博多口徒歩5分)

セッションおよび登壇者

第1部「西側同盟から見た冷戦終焉」

モデレーター

細谷 雄一

(慶應義塾大学法学部 教授/JIIA 上席客員研究員)

パネリスト

板橋 拓己

(東京大学大学院法学政治学研究所 教授)

中島 琢磨

(九州大学大学院法学研究院 教授)

山口 航

(帝京大学法学部 専任講師)

第2部「東アジアで冷戦は終わったのか」

モデレーター

川島 真

(東京大学大学院総合文化研究科 教授)

パネリスト

小林 聡明

(日本大学法学部 教授)

福田 円

(法政大学法学部 教授)

益尾 知佐子

(九州大学大学院比較社会文化研究院 教授/JIIA 客員研究員)

■言語：日本語

■参加費：無料

■参加登録：下記の二次元コードからご登録ください。

お問い合わせ先

日本国際問題研究所 福岡シンポジウム事務局

E-mail: 241102sympo@jia.or.jp



JIIA

100th



九州大学 法学部

歴史としての冷戦終焉

—ポスト冷戦の視座から—

登壇者略歴

第1部「西側同盟から見た冷戦終焉」

細谷 雄一 (ほそや ゆういち) 慶應義塾大学法学部 教授/JIIA 上席客員研究員

1994年立教大学法学部卒業、1997年慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了、2000年同博士課程修了。博士(法学)。プリンストン大学客員研究員(フルブライト・フェロー)、パリ政治学院客員教授(ジャパン・チェア)、ケンブリッジ大学ダウニング・カレッジ訪問研究員等を歴任。2010年、慶應義塾大学法学部教授に就任(現職)。日本国際問題研究所上席客員研究員を兼任。専門は国際政治学、国際政治史、イギリス外交史。主な著書に『戦後国際秩序とイギリス外交——戦後ヨーロッパの形成、1945～51年』(創文社、2001年、サントリー学芸賞)、『倫理的な戦争——トニー・ブレアの栄光と挫折』(慶應義塾大学出版会、2009年、読売・吉野作造賞)がある。

板橋 拓己 (いたばし たくみ) 東京大学大学院法学政治学研究科 教授

北海道大学大学院法学研究科博士後期課程修了、博士(法学)。北海道大学大学院法学研究科助教、成蹊大学法学部助教、同准教授、同教授を経て現職。専門は国際政治史、ドイツ政治外交史。著書に『分断の克服1989-1990——統一をめぐる西ドイツ外交の挑戦』(中公選書、2022年)など。

中島 琢磨 (なかしま たくま) 九州大学大学院法学研究院 教授

1976年、長崎県生まれ。鹿児島大学法文学部卒業、九州大学大学院法学府博士後期課程修了。博士(法学)。龍谷大学法学部准教授などを経て、2023年より現職。編著書に、『沖縄返還と日米安保体制』(有斐閣、2012年)、『高度成長と沖縄返還』(吉川弘文館、2012年)、栗山尚一/中島琢磨・服部龍二・江藤名保子編『外交証言録 沖縄返還・日中国交正常化・日米「密約」』(岩波書店、2010年)、「戦後の日本は主権を回復したか——『独立の実質化』の問題の視点から」(『年報政治学2019-I 主権はいま』2019年6月)など。

山口 航 (やまぐち わたる) 帝京大学法学部 専任講師

神戸市生まれ。同志社大学法学部3年次退学(飛び級で同大学院入学)。同大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士(政治学)。スタンフォード大学客員研究員、同志社大学アメリカ研究所助教などを経て、現在、帝京大学法学部専任講師。専門は日米関係史、安全保障論、国際政治学。著書に『冷戦終焉期の日米関係——分化する総合安全保障』(吉川弘文館、2023年、大平正芳記念賞・猪木正道賞)など。

第2部「東アジアで冷戦は終わったのか」

川島 真 (かわしま しん) 東京大学大学院総合文化研究科 教授

東京大学大学院総合文化研究科教授(国際関係史)。東京大学大学院人文社会系研究科修了、博士(文学)、専門はアジア政治外交史、中国外交史。北海道大学法学部助教などを経て2015年から現職。中曽根世界平和研究所研究本部長、日本学術会議連携会員などを兼任。台湾、中国、アメリカなどで在外研究。2004年『中国近代外交の形成』(名古屋大学出版会、2004年)でサントリー学芸賞、2023年外務大臣表彰。

小林 聡明 (こばやし そうめい) 日本大学法学部 教授

日本大学法学部新聞学科教授。一橋大学社会学部卒業。一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(社会学)。日本学術振興会(DC2, PD)特別研究員、東京大学、メリーランド大学、ソウル大学、高麗大学、East-West Center in Washington、ケンブリッジ大学、慶熙大学、台湾大学、ベルリン自由大学などで研究・教育活動を行ったのち、現職。朝鮮半島地域研究、東アジア国際政治史、情報・メディア史。

福田 円 (ふくだ まどか) 法政大学法学部 教授

国際基督教大学教養学部卒、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了、同後期博士課程単位取得退学。この間、台湾政治大学国際事務学院東亜研究所博士課程へ留学。博士(政策・メディア)。国士舘大学21世紀アジア学部専任講師、同准教授、法政大学法学部准教授を経て、2017年より現職。著書に、『中国外交と台湾——「一つの中国」原則の起源』(慶應義塾大学出版会、2013年)、『入門講義 戦後国際政治史』(共編著、慶應義塾大学出版会、2022年)など。

益尾 知佐子 (ますお ちさこ) 九州大学大学院比較社会文化研究院 教授/JIIA 客員研究員

専門は国際関係論、現代中国の政治外交。東京大学教養学部を卒業後、同大学院総合文化研究科で博士号取得(学術)。その間、研究助手として故エズラ・F・ヴォーゲル教授の薫陶も受けた。福岡で毎日、海を見て暮らすうちに海洋に関心をもち、2021年には中国海警法批判などで中曽根康弘賞優秀賞を受賞。著書に『中国の行動原理』(中公新書、2019年)、『中国外交史』(共著、東京大学出版会、2017年)、『中国政治外交の転換点』(東京大学出版会、2010年)など。英語・中国語での活動も多い。